

## 8月例会山行記録

8月例会 涸沢 (2,309m) ~ 奥穂高岳 (3,190m)・北穂高岳 (3,106m) 北アルプス  
実施日 2024 (令和6)年 8月5日(月)~8日(木) (3泊4日) 天候 全て晴  
参加者 CL永谷、SL (大木、佐々木<sup>順</sup>、小林)、船越、梶原、前田、和田、山川、竹内 (10名)  
(SL喜多は直前の怪我で欠席、佐々木<sup>順</sup>が代役をしました)  
行程 5日: 岡山駅西口 (6:00) ⇒ 岡山IC ⇒ (山陽・名神・東海北陸・中部縦貫) ⇒ 高山IC ⇒  
上高地バスターミナル (14:00) → 明神橋 (15:50) → 徳沢ロッヂ (16:40)  
6日: 徳沢ロッヂ (6:00) → 横尾大橋 (7:50) → 本谷橋 (9:10) → 涸沢小屋 (12:00)  
7日: 涸沢小屋 (5:45) → 奥穂高岳 (7名) と北穂高岳 (3名) に分かれて登山 (詳細別記)。  
8日: 涸沢小屋 (5:00) → 本谷橋 (7:00) → 横尾 (8:30) → 徳沢 (9:40) → 明神橋 (10:40)  
→ 上高地バスターミナル (12:00) → 平湯温泉 (12:40着 13:30発) ⇒ 高山IC ⇒  
(中部縦貫・東海北陸・名神・山陽) ⇒ 岡山IC ⇒ 岡山駅西口 (22:20)

概要 出発前には雨を覚悟するよう  
な予報でしたが、4日間ともに好  
天に恵まれ、存分に登頂と下山を  
満喫できました。河童橋から明神  
橋の間は梓川の左岸が洪水被害  
のため通行不能で、右岸を通るこ  
ととなり少し迂回となったもの  
のそれなりに楽しめました。往路  
は一宮 JCT 辺りで事故渋滞に遭  
遇し、予定より大幅に遅れたため  
バス会社の配慮で上高地バスタ  
ーミナルまで乗り入れてもらい  
ました。



2日目(6日)は涸沢小屋までのゆっくりとした行程で、横尾大橋を渡り横尾谷沿いに歩き、樹間に見える屏風岩を眺めながら本谷橋に至りました。この幅の狭い吊り橋を渡り、急坂やガレ沢を登って、昼頃には涸沢小屋に着きました。夕食までの長い時間を、ビールを飲みながら、正面に見える前穂高岳の山容や涸沢カールの雪渓を眺めながら過ごしました。イワヒバリがお愛想をしてくれました。

3日目が本番で、奥穂高岳に向かう7名と北穂高岳の3名でそれぞれに出発し、14時半頃に



は帰着・合流して、ビールその他で昨日の宴会の続きを楽しみました。この日の深夜の空はガスもなく月もなくペルセウス座流星群が楽しめたようです。

4日目は下山・帰路です。涸沢小屋から上高地までひたすら下ります。この日も快晴で、奥穂高岳にモルゲンロートが鮮やかに現れ、これを背景に記念写真を撮ってから、ガレ場を注意深く下りました。上高地バスターミナルから路線バスで平湯温泉に行き、汗と疲れを洗い流して帰路のバスに乗りました。大木さんが「穂高よさらば」を歌ってくれました。



モルゲンロート

【奥穂高岳】 参加者：CL永谷、SL(大木、小林)、梶原、前田、和田、山川 (以上7名)

涸沢小屋(5:45)→ザイテングラート取付き(6:43~6:55)→穂高山荘(8:19~8:37)→奥穂高岳山頂(9:40~10:00)→穂高山荘、昼食(11:00~11:35)→ザイテングラート取付き(12:45~12:55)→涸沢小屋(14:00)

涸沢小屋を出発してナナカマドの樹林帯を抜けてガレ場の路をゆっくりと歩いてザイテングラート取付きに達し小休憩としました。クサリやハシゴの岩尾根の急登を経て白出のコル、穂高山荘に達し、トイレ休憩などの後、奥穂高

岳山頂を目指してクサリ、ハシゴの岩尾根やガレ場を登り、右側前方にジャンダルムを見ながら山頂に達しました。



奥穂高岳山頂



ザイテングラート取付き

ジャンダルムで軽い滑落事故があったようでした。山頂付近の安全な場所で記念撮影し、穂高山荘を目指してガレ場、クサリ、ハシゴを慎重に降りていき、穂高山荘で昼食休憩をして、ザイテングラートの岩尾根、ハシゴ、クサリを安全第一で下り、全員無事に涸沢山荘に着きました。

(小林記)

【北穂高岳】 参加者 SL佐々木、竹内、船越（以上3名）

涸沢小屋出発 5:49-7:44 南尾根クサリ・ハシゴ場-9:33 南峰 9:50-10:08 北穂高岳（北峰）  
小屋ランチ 11:05- クサリ・ハシゴ場 13:06-14:25 涸沢小屋

奥穂本隊を見送り、直ぐに北穂に向けて出発しました。こちらは3名、年寄りの私が先頭に立たせて貰い、リンドウ、トリカブト等の花を見ながら急登のお花畑をゆっくり登ります。南尾根取り付きは遠く、谷筋は長いです。高校ワングル部の生徒達約40名に先を譲ります。やっとクサリのスラブ、次いで3~40段のハシゴを上り切りました。

やれやれ、やっとザイテン方向が見下ろせる南尾根に辿り着きました。奥穂本隊が見えないかな？あれかなと思える人影達です。でも本隊はそれよりも上にいたようです。

南峰からは大キレット底部から南岳小屋は見通

せるのですが、槍ヶ岳尖峰はお隠れです。北穂高岳頂上では何とか槍の穂先が見えたのですが、雲の動きが速く、写真の佐々木SLのヘルメットに乗っかっているのが槍なのです。

下山はゆっくり一步一步、万一が無いように着実に下った。涸沢小屋はもう目前、そのコーナーを右に曲がれば到着です。ここで気が緩んだのだろうか？左右の膝がガクン、10センチ程両膝が沈んだ。左前よろけるように数歩進み、ザックを背負ったまま左手を石畳に突き、座り込んでしまった。漢方68を飲んで一息入れる。

これが潮時らしい、来月は満83才になる。年貢の納め時だとはっきり感じた。気合を入れてコーナーを曲がる！

目の前に奥穂本隊皆の歓声、永谷CLが走り寄ってお迎えしてくれた。ビール、ビール！

(船越記)



北穂高山頂



クサリ場